



## 第15回 Festival do Japão 大盛況！ 入場者 20万人超

今年も県人会連合会主催「第15回日本まつり(Festival do Japão)」 「共存する進歩と環境(Sustentabilidade e o Futuro da Humanidade)」をテーマに、7月13日14日15日と晴天に恵まれたイミグランテス会場で開催され、日本からの代表団やブラジルの副大統領、州知事、次期市長候補や、日系議員なども詰めかけ20万人超(去年は18万人)が各県自慢の郷土食を味わい様々なイベントを楽しんだ。



「郷土食」さて、各県人会では新しい食を工夫し、幅広い商品が出だした。岩手県人会では「三陸わかめうどん」1600食を用意、ワカメは本場岩手産を注文、うどんもコシのある輸入品に替え美味いうどんを提供した。新たに「コロッケ弁当」を加え



県人会BOXも訪れたミッシェル副大統領(右から3人目)とJICA青年ボランティアの皆さん(副大統領の両隣が岩手出身の大山さんと遠藤さん、もう一人は北海道の松原さん)

広大な会場「食の広場」には46県人会と福祉団体を合わせて53のブース、舞台が設置され、また盆踊りの櫓が組まれた。「大パビリオン」には大手企業やバザーの店舗、福祉団体、文化広場、特設舞台と270ほどのスタンドがあり、昨年よりスペースを広げたようである

(食コーナー付近の人人・・・) た。普通コロッケはジャガイモが主材料であるが、北伯地方の主食であるマンジョッカ芋(日本名でキャツサブ芋)を使用。芋の甘味を取り入れたコロッケ(写真左)を開発(?)、コロッケ2個とご飯、サラダを加え700食分の弁当と、皆さん好みの餃子も700ダースを用意。好天と寒さで完売した。昨年は暑さと場所のため売残りが相当あったが、今回は場所と薄利多売商法が良かったのでは・・・ 昨年は暑さと場所のため売残りが相当あったが、今



写真は三陸わかめうどん

「若人の交流の場」各県人会にとって日本祭りは、若いボランティアが集合するようになり、県人会を広める絶好の場となった。

一方フェスチバルは入場者が増えるに従い、規模も拡大、スポンサーも自動車関連の日系進出企業や、ブラジルの主力銀行だった



が、今年からは総合商社三菱系統の企業が参加し三重県、福岡県の小企業や県庁職員もPRに努めていた。

ブラジルは今後も発展し続ける世界の大市场であり、大企業をはじめ中小企業の進出を期待し、優秀な日本商品の売込みを願いたい。特に各県は首都圏或いは近隣諸国へ特産物などを売り込んでいるが、近くより遠く南米から、世界市場へ広める大局的手法を見出している。中国や韓国産の紛い物を日系人は敬遠。本物を売り込んで欲しい。



回は場所と薄利多売商法が良かったのではと思う。従って経費も多く薄利であるから純益を心配している。他県人会でもホクホクだったようである。

岩手BOXに現れたミッシェルテメル副大統領。何を食べて何を話したのかな



「盆踊り」は土日と行われたが「日本まつり」に相応しく、企画が準備に時間的余裕のない中で開催にこぎつけたと感心。



「祭り」には無くてはならない日本文化「盆踊り」、老若男女国境を忘れて（当国には民族の壁はない）ブラジル人も踊りの輪に入り楽しんでた。日系女性やブラジル人の笛吹きも上手で、祭りを盛り上げ今後「盆踊り」は「日本祭り」の目玉となりそうだ。

「のみの市」は3県人会が出品、ある県では売れて3回も取りに行ったそうである。岩手も不用品を綺麗にして30点ほど出品。意外と古物に興味があったらしく、売店担当に聞くところ90%以上が売れたとの事。（写真右、のみの市に見入る人々）



「JICA 派遣青年ボランティア」7月3日来伯した3名に会場であつた。24日から其々の任地で2年間日本語の先生として活動する。遠藤眞世さんは金石出身でサンパウロ州 Penápolis に、大山智美さんは盛岡出身、パラナ州 Foz do Iguaçu へ。ひとり北海道出身で松原有希さんはサンパウロ州 Tupã に赴任する。21日（土）午後3名の歓迎会を県人会で行うことを約束。



（写真 右から多田副会長、遠藤さん、大山さん、松原さん、千田会長）

## けんじんかいたい こ らいじん しゅえん 県人会太鼓「雷神」も出演

岩手県人会の太鼓「雷神」（昆野ワシントン代表、楠木正夫指導）は、芸能の部で15日（日）屋内パビリオン舞台に出演。日頃の成果を披露し大喝采を浴びた。



①「車の渋滞」毎年のものであるが会場へ車の乗り入れで、広いイミグランテ街道から展示場への道が極端に狭くなり、土日はお昼まえから渋滞が生じて、中には痺れを切らし帰る車が多くあると云う。

折角祭りを見ようと期待して来た人に申し訳ないと思う。裏口にも「切符売り場」を設けて「表」の渋滞を防ぐために誘導を計る必要がある。

②「ガスの供給」今年はガスの供給が特に酷かった。金曜第一ルートでは正午前からガスの供給があつたが、二のルートでは1時半過ぎに供給された。第三のルートでは配管さえなく、担当者が消防と相談しガスボンベを取りに行き、調理を始めたのは午後2時を過ぎていたと云う。同ルートの配管供給は、土曜の午後4時頃と聞く。食の提供は金曜日正午となっているが、正午に「食」を提供するには、準備に遅くとも早朝からガスの供給が必要である。来季は必要な電気、水、ガスなど万全を期して頂きたい。

③「トイレ増設と清掃」「駐車場」「入場券の問題」「舞台の音響大」「コンセントの不表示」「dvd 海賊版」その他様々な問題があつたようです。

「日本まつりの経緯」15回の節目に同祭の発端を…1997年6月8日、岩手、広島、栃木県の青年部が合同で当会で「寿司まつり」



を行つた。寒い時期で当会青年部では岩手地方食「ケンチン汁（芋っこ煮）」を作つて提供した事があり、当時の網野県連会長が干田さん各県には美味しい郷土食があるんだと話した事

があり、このアイデアから県連では、翌1998年7月25日26日に「第1回郷土食・郷土芸能まつり」として、イブラプエラ公園のマルキーゼ広場で開催したのが始まりである。以後同公園の育苗場（Viveiro）、州議会駐車場（この頃から「日本まつり」になった）、第9回から現在の州農務局のイベント会場となった。

その間様々な問題もあつたが、ここ数年は利益も出るようになり、各県人会にとっても乏しい財政への一助となり欠かせないイベントとなった。（写真は当時の餅搗き風景）



- 6月1日 県国際交流協会から移住者伊藤寅吉さんの遺族カルロスさんについて問合せあり。返信
- 11 山田町の松本ミさんから「わかめ」を発送と連絡あり
- 14 県国際課の伊東義学さんから「リオ+20」について電話あり
- 18 日本移民104周年記念、イビラプエラ慰霊碑での追悼法要に千田会長出席
- 20 昨夜千田会長夫妻、多田副会長でリオへ出発。午前4時会場前着。6時半ころ「ジャパデー会場」着、午後県庁職員3名と昼食をかねて懇談。18時前レセプション会場で「餅搗きを披露」同夜9時発。翌朝03時過ぎ県人会着
- 21 及川益夫理事逝去（行年80才）の報あり。☆ 平野マリア婦人部長、日本祭りについて衛生局の会合に出席
- 23 中野良子オイスカ総裁、渡邊忠副理事長の朝食会に会長出席
- 24 イタケーラ区役所主催で行われた七夕祭りを会長夫妻視察
- 25 多田副会長郵便局に赴き松本さんのワカメを受領
- 26 大部総領事夫妻帰国に伴い総領事公邸でお別れ会開催。千田会長出席。夜コロナ団体主催送別会に会長夫妻出席
- 27 県連基金委員会に会長出席
- 28 県連代表者会に会長出席
- 7月3日 東北ブロック会合を当会で行う。ブロックの余剰金を決済
- 4 高橋カルロスさんより会館家屋税免除の報あり
- 5 会報178号を国内外に発送。県助成金申請書を県庁へ発送

- ☆ 県国際課の伊東主査より、リオでの餅搗き風景の写真受信
- 13、14、15日 第15回日本まつりに「三陸わかめうどん」「コロクケ弁当」「餃子」を出品し完売
- 16 元朝日新聞記者森哲史氏来館。☆ 藤沢岩手民謡会長よりビデオ民謡編受領のメールあり
- 20 賛助会の吉田会長より役員会で来年のブラジル・イグアス式典慶祝の旅案あり。☆ 森記者を邦字紙へ案内。
- 21 岩手出身のJICA ボランティアの歓迎と日本まつりの慰労会開催
- 23 森記者のブログ「2014・W杯」のブラジル取材のメールあり
- 25 金ヶ崎在住で旅行コンサルタント経営の磯学氏から、地元ゲートボール協会が海外親善試合について申し入れあり、返信
- 26 県連代表者会に会長出席。☆ 国際課の山田さんより県知事、岩手大学長より留学生東さんの受入決定書受領
- 28 県人会を手伝った旅人佐藤良介君の送別会を有志で行う
- 30 盛岡都南在住の長田里子さん、栄拓さん（金ヶ崎出身）観光で来館。盛岡の長田さんは吉田英子さんと親戚との事
- 8月6日 役員会、行事案内書を会員へ発送
- 8 平成24年度海外県人会連携支援補助金契約書を県庁へ発送
- 9 オリンピック女子サッカー決勝観戦会をおこなう
- 11 役員会開催 日本まつり報告、会員交流誕生会・留学生壮行会、餅まつり、忘年会、55周年式典などについて
- 12 山口県人会85周年式典に千田会長夫妻出席

**会費納入者名** (敬称略) 年額 R\$75.00

- 5月 岡田菊男、6月 児玉剛一、山田山口エツコ、比日勝義(賛)、
- 7月 内海博、猫塚司、村川猛春、中野光雄(賛)、太田義穂
- 8月 高橋啓一、鈴木金人、鈴木秀人、陳文財(賛)、

**図書寄贈** 7月 石井ネウザ 30冊、無名氏 1冊、福岡県人会 1冊、和田司 1冊、山田幸江 3冊、8月 田口典子 3冊、鈴木 週刊誌多数、  
**図書読者冊数** 6月 152名 742冊、7月 161名 788冊、

**事務所訪問者数** 6月 393名、7月 438名、  
 1階ホール使用者は含まれません

**お知らせ** 9月10日から3週間ほど、千田会長は来年2013年8月18日に予定している「ブラジル岩手県人会55周年記念式典」開催にあたり、岩手県や県民皆さんへのご挨拶方々、式典参加を呼びかけに参ります。留守中何かとご不便をかけますが宜しくお願いします。また、事務は藤村ミエ ノルマさんが対応します。

**逝去** 及川益夫氏(理事、和賀郡江釣子出身、行年80歳)は、去る6月21日亡くなりました。故人のご冥福を祈ります。及川さんは昭和10年1月3歳で家族7人と移住、当時モジアナ線ジュリオポンテスのサンタマリア耕地に入植した。



**寄付・寄贈** (敬称略6月7月分)

- 高橋好子 R\$ 150.00、林田洋子 R\$ 50.00、石井ネウザ 遺品まつもと「三陸わかめ」42バック、佐々木憲輔 お茶菓子、門脇松本トミ 「三陸わかめ」42バック、佐々木憲輔 お茶菓子、門脇 R\$ 30.00、来訪者多数 お茶菓子、高橋啓一 R\$ 25.00、及川セシリア R\$ 500.00 (夫益夫氏の香典返し)、榎木原マリリア R\$ 50.00、

**県人会のプログラム** (Aviso de Atividades)

はじめに 先日県人会のスケジュール(ご案内)を発送させて頂きましたが、都合により「餅まつり」「忘年会・交流誕生会」は、下記のごとく変更になりましたのでお知らせ致します。

- ☆ 11月11日(日)「第19回餅祭り」を行います。☆ 白餅のご注文に応じます。☆ 餅料理は「お雑煮」「ずんだ餅」「あんこ餅」「醤油砂糖餅」「きなこ餅」「ごま餅」などです。  
Dia /11 - 11hs Festival de Moti (Vários sabores de cobertura)
- ☆ 12月2日(日)「2012年度忘年会・第51回会員交流誕生会」を行います。02/12 11hs Bonenkai 2012 e Aniversariantes
- ☆ 2013年1月20日 第54回定期総会・新年会  
(来年は役員改選があります、我と思う方々はシャツパ(連名で申し込みを) 54º Assembléia Geral Originária de ACA Iwate-Kenjinkai do Brasil e Shinnen-kai 2013

# 「リオ+ 20」 ジャパンイブニング

## TOHOKU FORWARD に岩手県人会参加



6月20日からリオデジャネイロで開催された、世界環境会議「リオ+ 20」の各国PRパビリオンや「日本のグリーンイノベーション復興への力、世界との

絆」をテーマに日本館があり、隣接会場でブラジル県人会は「餅搦き」で応援した。

イベントには岩手県、外務省から依頼され、重たい白や用具、材料、鏡割りの樽などワゴン車に積み込み、千田会長夫婦、多田副会長の3名で19日夜発21日早朝帰着の強行軍だった。

リオのParque dos Atletasが会場で、道々警察車両や軍隊が物々しい警戒網を張っていた。会場へ20日夜明け前着。道路を挟んで向う側に国際会議場があった。

会場には環境に配した各国のパビリオンが立ち並んでいた。日本のパビリオンには、政府、団体、企業など30件ほどのスタンドが設けられ、被災3県知事からのメッセージや写真展示などあり、サンパウロから味の素の取締役で北上出身の加藤さんがPRに努めていた。各



スタンドは英語での説明文だけだった。主催国のボ語や日本語での説明が少しはあっても良いのでは、パビリオンはテント張りであるが、

中には外壁を工夫して国をイメージした会場があった。日本館もイメージがあって欲しいと感じた。因みに「日本館」へ期間中の入場者は約2万人だったとの事。

一方ジャパンイブニング会場では、東北地方の復興状況を伝えるセミナー、被災3県の文化、物産紹介などの映像が流れていた。

午後、岩手県庁から小野博復興企画局課長、石木田浩美文化国際課長、伊東義学国際課主査が来場。昼食を共に懇談した。被災地の復興について聞いてみると、やはり計画通りにはしる問題で進んでいないとの事であった。



3時から会場の入替えが行われ、岩手、宮城、福島3県の復興をアピールするスタンドが設けられた。被災県の酒などが主に展示され岩手は南部美人であった。

ジャパンデーのレセプションでは、玄葉光一郎外務大臣が福島県会

津若松の放射線はニューヨークや上海と同じ線量で心配はないと云っていた。この放射能問題で日本から輸入された食品が昨年暮れからサントス港でストップし、店には日本食品が出回ってない、多くの日本食ファンを困らせている。現在は紛い物が多い中国や韓国産で

ているが、日本本品は品質が全く違う。日本政府はブラジル政府や国際会議などで日本製品は安全



だとアピールし訴えたのだろうか。（写真上、玄葉外相の挨拶）リオ日本人学校の生徒代表たちが、被災地へ復興を祈願したメッセージを披露、また東北三県の代表者へ短冊に応援メッセージを吊るした七夕飾りを贈呈した。

当会から持参した南部美人の「樽」で、玄葉外相、3県代表者が鏡開を行い、純米古酒で玄葉外相の乾杯でレセプションが始まった。いよいよ県人会の出番で「餅搦き」を会場で披露。参加者は久しぶ



りに餅搦き風景を堪能したようである。搦いた餅は丸められ、岩手産の醤油を使った「醤油餅」「黄粉餅」「ゴマ餅」「納豆餅」

（日語生徒たちと被災地府代表に玄葉外相）「餃子餅」の5種類を会場で振舞った。80%が日系人のせいか納豆餅が喜ばれた。また岩手産のワカメに味付けし試食頂いた。ニカラグアの環境大臣は、ワカメが気に入りに代りたりたと石木田課長談。

会場には鹿田リオ日伯文化体育連盟会長、オイスカの中野理事長や馴染みの渡邊副理事長も参加され一時の懇談が出来た。

最後に、県人会として母県岩手をお手伝いできたことや、県職員との交流など様々な方たちと懇談出来た事が良かったと思う。なおイベント会場での参加者は300名を超えたようである。



☆ 後日、外務省広報文化国際部総合課長名で礼状があった。（略）外務省が実施した「ジャパンイブニング」に於いて、被災地岩手県と関わりの深い貴県人会には、会場で「餅搦きパフォーマンス」をご披露頂き、多大なご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

会場には世界各国、機関など超満員の300名以上が参加し、大盛況を博しました。参加者は各県代表の説明を熱心に聴き、東北の郷土料理や和太鼓観賞、酒の試飲などを通して東北の元気な姿や、魅力への理解を深めた事は、極めて有意義であったと考えております。

にほんいみん しゅうねんついとうほうよう  
**日本移民104周年追悼法要**



今年も6月18日、日本移民記念日がやってきた。1908年笠戸丸が最初の日本人移民781名を乗せて、サンパウロ州のサントス港に着岸し、移民の歴史も104年を迎えた。

午前9時からサンゴンサーロ教会でのミサ、10時半から県連と仏教連合会共催で、イブラプエラ公園内の先没者慰霊碑で追悼法要、午後からは文協で共催団体と仏教連合会で移民104周年の法要がおこなわれた。

県人会は県連、仏教連合会のイブラプエラの慰霊碑で行われた追悼法要に参加。県人先没者の過去帳を千田会長が持参し参拝した。大部一秋総領事夫妻、各県人会やコロニア団体代表など約80人が、厳粛な仏式法要のなか先没者の追悼法要が行われた。

園田県連会長は、慰霊碑は1975年建立され、現在まで天皇皇后両陛下、政治家、政府高官、各県知事などが参拝したと言及。

また昨年の東日本大震災の犠牲者や被災地の復興と共に祈願し各宗派や総領事夫妻、団体代表、各県人会長らが焼香した。

につけい ふうぶつし たなぼたまつ  
**日系コロニアの風物詩 七夕祭り**

7月7日8日とコロニアの風物詩、宮城県人会とリベルダーデ商工会共催で第34回「七夕祭り」が行われた。

今年は例年と違い、長い竹の穂先はなく7-8mの竹に、途中から斜めに穂がない細い竹を張出し、3個だった七夕飾りを2個に減少。

また、吊した飾りも昨年までは学校の生徒、団体、個人と様々な大きさや多様な飾りがあったり、学校の先生が生徒達を引率して風景画を描いていた姿がなく、人出は多いが何だか寂しい思いがした七夕で、廃れゆく風化の一端だろうか。

以前の七夕に戻って欲しいと願う。

短冊を吊るす竹は平年と変わらず、

欲をいえばもう少し青葉の付いた竹

だったと思う。日系人よりブラジル人

が多く殆どがポルトガル語の願ひだった。

日曜日は1日中小雨だったが人出は絶えなかった。ブラジル社会

には祭りが浸透したようである。

には祭りが浸透したようである。



そうりょうじ ふさい わか かい  
**総領事夫妻のお別れ会**



サンパウロ総領事館の大部一秋総領事夫妻は、約3年半の任務を終え6月28日帰国されることになった。総領事は帰国を前に26日正午から公邸で、コロニア団体代表やブ

ラジル関係者などを招きお別れ会があった。

任期中総領事は、挨拶で106ヶ所164回も日系集団地や団体を訪問し、親しく懇談交流が出来たことを喜んでた。

3年半を振りかえり「サンパウロとの出会いは感慨深く、去つても心はここに残る」と挨拶。最後に Viva Japão.Viva Brasil, 万歳日本、万歳ブラジルと思いを込めて閉めくつた。

一方26日夜、コロニア諸団体主催で、大部総領事夫妻を迎え文協貴賓室でお別れ会があり、総勢300人が夫妻とお別れを惜しんだ。総領事は、栄子夫人の支えに「ありがとう」と感謝の言葉を述べた。尚、栄子夫人は難しいブラジル国歌を短期間で特訓し、最初から最後まで歌う事で有名であった。

いわてしゅっしん せいねん むか  
**岩手出身 JICA 青年ボランティアを迎えて**

7月21日(土)先の「日本まつり」で出会った、JICA派遣青年ボランティアの遠藤真世さん(釜石出身)、大山智美さん(盛岡出身)、に北海道出身の松原有希さんを迎えて歓迎会、並びに日本まつりで手伝ったボランティア皆さんの慰労会を兼ねて行った。

一行は7月3日着。JICAの現地事情などの種々研修を行い24日に赴任地に向かう。遠藤さんはサンパウロ州 Penapolis に、大山さんはパラナ州 Foz do Iguaçu、松原さんはサンパウロ州 Tupã にそれぞれ日本語教師として2年間活動する。

多田副会長の司会で、千田会長の挨拶、ボランティアの自己紹介、多田副会長の乾杯で祝宴が始まった。県費留学生研修生 OB、本年度留学生の東



さん、青年部員と幅広い交流会が行われた。☆赴任地に着いた遠藤さんからメールがありました。先日はお誘い頂いてとても嬉しかったです。ありがとうございました。今日赴任地のペナポリスに到着しました。協会の皆さんにもよく頂いて少しホッとしています。またサンパウロ市に行った際にはお邪魔させて頂きたいと思っています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

# 15º FESTIVAL DO JAPÃO



Box de Iwate

Sucesso, é como podemos definir o Festival do Japão deste ano. Fez tempo bom em todos os dias, friozinho que ajudou vender nosso Udon, ficamos em um lugar ótimo, acertamos ao introduzir no cardápio deste ano o Korokke Obento e o mais importante de todos, batemos o recorde de voluntários de todos os festivais, foi muito gratificante. Sanriku Wakame Udon

Este ano preparamos 1600 Udon, 1200 porções de gyoza e 700 porções de Korokke Obento. Por volta das 16 horas do domingo, havíamos vendido tudo.



O Festival também cresceu. Das 180 mil pessoas do ano passado, o público deste ano foi estimado em 200 mil pessoas, com a ilustre presença do Exmo.

Vice Presidente da República Michel Temer, Governador de São Paulo Geraldo Alckmin, entre outros políticos e candidatos a prefeito e vereadores. Não podemos esquecer do Grupo de Raijin Taiko, que se apresentou brilhantemente pelo segundo ano consecutivo no palco do festival e foi muito aplaudido pelo público presente.

Em nome da Diretoria, agradecemos a todos os voluntários que ajudaram em mais um Festival do Japão, até a próxima.



Apresentação de Raijin taiko no festival



Muitas pessoas no Festival



1º Bon-odori do Festival do Japão



Despedida para o Sr. Sato

# RIO + 20 (TOHOKU FORWARD)



A Conferência das Nações Unidas sobre Desenvolvimento Sustentável (Rio +20), 20 anos após a Cúpula da Terra do Rio, realizada em 1992, para discutir os desafios da próxima década em relação à economia global, a sociedade e o meio ambiente, foi realizada no Rio de Janeiro no mês de junho deste ano.

O Pavilhão do Japão, foi montado no Parque dos Atletas, anexo ao Rio Centro. Através de estreita cooperação entre o Ministério das Relações Exteriores e o setor privado. Apresentaram ao público exposição com o tema " Japan Green Innovation-Driving reconstruction, connecting with the world"



A exposição mostrou as tecnologias para economizar

energia, ilustrando a contribuição do Japão para a sociedade e a sua resistência às catástrofes, como resultado de suas experiências do



Grande Terremoto do Leste do Japão. Expuseram fotos e filmes que mostraram o processo de reconstrução da região de Tohoku. No dia 20, ocorreu o "Japan Day" e também o Tohoku



Forward, destacando renascimento da região e as suas diversas atrações.

A convite do Ministério das Relações Exteriores e do Governo de Iwate,



nosso Kenjinkai foi convidado a demonstrar o Moti-Tsuki do modo tradicional, isto é com Usu e Kine. Esta demonstração, ocorreu como uma das atrações durante a recepção aos convidados de diversos países.



O moti feito na hora, foi servido com cobertura de Anko, Natto, Sato Shoyu e kinato, sendo muito apreciado e elogiado por todos os presentes.

Participaram deste evento : Hiroaki Chida, Teresa Chida e Mauro Tada, que foram para o Rio de Janeiro com uma VAN cedida pelo Governo Japonês.



OTSUKARESSAMA!

## ANUIDADES RECEBIDAS

(MAIO/12) Kikuo Okada, (JUNHO/12) Gohiti Kodama, Etsuko Yamaguchi Yamada, Katsuyoshi Hibi, (JULHO/12) Hiroshi Utsumi, Mori Nekozuka, Takeharu Murakawa, Mitsuo Nakano, Yoshio Oota, (AGOSTO/12) Keiiti Takahashi, Kaneto Suzuki, Hideto Suzuki. Chem Wen.

## NOTA DE FALECIMENTO

Masuo Oikawa, faleceu aos 80 anos no dia 21/06 em São Paulo Capital. Oikawa-san veio ao Brasil aos 3 anos de idade, e foi morar na região mogiana. Era membro da diretoria do Kenjinkai.



岩手県人会ニユース ボレティン Informativo 179  
TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br  
Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

## アソシアチオン Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



6月20日「ジャパンデー」での「餅搗き」風景。  
会場は超満員で参加者は300名を超えた。

7月15日 15° Festival do Japão 岩手県人会  
BOXを訪れたミッシェルテメル副大統領

